

## 平成26年第1回帯広市公営企業経営審議会 議事録要旨

日 時 : 平成26年2月26日(水)午前10時

場 所 : 帯広市役所10階第5A会議室

### 議題(1)平成26年度予算概要について

- 委員  
事務局
- 前倒しの予算は、どのように反映されているか。  
水道事業の配水管整備事業で約4億800万円、下水道の管渠長寿命化事業で約7千万円、マンホールの安全対策事業で約2,400万円ほどになります。
- 委員  
事務局
- 技術の継承は、予算に反映されているのか。  
新年度の予算額は、持っておりませんが、予算のかからない方法で進める予定です。  
また、技術継承の課題解決に向けた検討部会をつくり、検討を始めるところです。
- 委員  
事務局
- 1日最大給水量が、25年度と比べると26年度は少し下がっているが、戸数が増加しているのに、下がるのはなぜか。  
節水の影響と大規模な施設の使用量が減ってきている影響が大きいと思われる。
- 委員  
事務局
- 下水道の不明水対策事業のこれまでと今後の見通しについて。  
不明水対策事業については、25年度に不明水をある程度絞り込み、26年度にカメラ調査をすることになっています。  
27年度以降は、カメラ調査により地下水が入っている所がわかれば、継続して修繕を行っていきます。
- 委員  
事務局
- 特別損失の中身は何か、また、これまではどのように処理されてきたのか。  
特別損失につきましては、会計制度の移行に伴い、まず、減損損失という減損処理を土地の価格の減少分について計上しています。  
もう一つにその他特別損失として、退職給付引当金、賞与引当金、貸倒

損失を計上しています。

退職給付引当金は、これまで退職給与引当金として、費用を平準化するために今後5年間で退職する職員に必要な退職金を計上しておりました。賞与引当金につきましては、毎年度予算執行の中で支出し、貸倒引当金につきましては、不納欠損等で損失処理をしてきたのが現状です。

委員  
事務局

**遊休資産を持っているのか。**

富士地区に、十勝中部広域水道企業団から受水する配水池を建設するための建設用地を、30年くらい前に取得しましたが、その後の帯広市の人口や配水量が当初計画ほど伸びていないため、配水池の必要性が無いと判断し、最終的には土地の処分なども含め検討しなくてはならないという認識を持っています。

委員  
事務局

**技術者の問題について、採用するにあたり何か方策はなかったのか。**

過去に行財政改革ということで職員定数を削減してきていることも大きな要因になっていると思います。

技術を継承する上で、次の世代の人材の確保も必要になってきますので、総務部と連携しながら体制づくりをしていこうと考えております。

委員  
事務局

**古い水道管の体への安全性について。**

昔ですと、石綿管や鉛管ということで体に悪いという事がありました。今はそのような管はありません。

また、古い管ですと錆などの問題もありますが、今はなるべく錆の付かないような部品になってきています。